

【第 151 回コロナウイルス対策本部会議】 1 月 27 日

健康福祉部長／1 週間ごとの感染者数の推移は、今週が 3,000 人超。1 月 1 日の週をピークに、急激に下がっている。昨年のお盆頃の第 7 波と同様の傾向を示している。

新たな変異株 XBB.1.5 (エックスビービーワンファイブ) が、海外で感染拡大し、懸念している。

年代別の感染者数は、20 代以下が 4 割、40 代以下が 6 割、高齢者が 1.5 割。大きな変化はないが、40 代以下は微減、50 代以上が微増。新学期による影響はないが、高齢者施設や病院での感染が続いている。

この 1 週間の感染者数は、平日が 600~500 人台と減少し、27 日には 424 人になった。

入院者数は 216 人、病床使用率は 36.9%。うち中等症者は 82 人、中等症者の病床使用率は 14.0%。重症者が 4 人、重症者の病床使用率は 8.3%。病床使用率は 26 日に、昨年の 12 月 10 日以来、47 日ぶりに 30%台になった。

感染者数が減少傾向とはいえ、毎日数百人の感染者が出ている。医療現場の皆さんは、昨年 1 月から続くオミクロン株対応も含め、休む暇もなく医療環境を守っている。県民の皆さんには、発熱、咳などの風邪症状であれば休日・夜間の外来受診は控え、診療体制が整った平日昼間の受診をお願いします。呼吸が苦しいなど緊急の場合は、躊躇なく外来受診や救急車の要請を。

手洗い、マスク着用、換気など基本的な感染対策防止を引き続きお願いします。

アメリカの CDC (疾病対策予防センター) の分析では、BA.5 対応の新型コロナワクチンは、新たな変異株 XBB.1.5 も含む XBB 系統に一定の効果が見られたとのこと。

インフルエンザの急激な増加はないが、県内でも流行している。新型コロナワクチン、インフルエンザワクチンの接種を検討してほしい。

教育長／直近 1 週間の学校での感染者数は 631 名。学級閉鎖が、小学校では 6 学級、県立学校は 1 学級、計 7 学級。感染ピーク時の 12 月中旬は、1 週間当たりの感染者数が 1,600 人超、学級閉鎖は 28 学級だった。3 学期が始まり、10 代の感染が増えるのでは、と懸念したが、落ち着きつつある。引き続き感染対策をしながら第 8 波を乗り切りたい。

南里副知事／インフルエンザは、予想より少ない状況か。

健康福祉部長／一般的に、インフルエンザは急激に増える傾向がある。しかし、今回は

そこまで増えていない。1週間の定点医療機関当たりの患者報告数が10人以上を示す「注意報（基準値10）」止まりで、「警報（基準値30）」には至っていない。

マスク着用、手洗いやうがいの徹底が、インフルエンザの感染対策にもなっている。

知事／コロナの感染症上の位置づけを、5月8日から5類に引き下げる方針が、本日、国の対策本部会議で決定する。国には、早急に5類移行への対処方針を決定し、国民に責任を持って説明して欲しい。

マスクの対応方針は、個人の判断になると聞いている。来春、小学校に入学する児童は、コロナ禍の幼稚園や保育園で、ほぼマスクをつけてきた。子どものマスク着用の習慣化を危惧している。小学生、幼稚園児や保育園児が、マスクの着用を判断するのは難しい。国が、「基本的には着用しないが、様々な事情で着用してもよい」と方向性を示してほしい。多様な観点から検討し、方針を出してもらいたい。

昨年1月、感染は速いが重症化しにくいオミクロン株が、まん延した。お盆の第7波が10月に、いったん沈静化。その後、第8波が発生し、現在は減少傾向になった。

本県は、個別の行動制限はせず、皆さんに通常のコロナ対応をお願いしている。今後も、第9波、第10波と感染が続くのかどうか。また、重症化しやすい変異株が発生する可能性が、どの程度あるのかが気になる。

この2つを見据え、今後の状況を分析し、県民の皆さんに説明し、対処方針を決めた。今のままであれば、うがい、手洗いなど通常の対応方針でいい。

インフルエンザも流行する中、医療機関、高齢者施設など、感染リスクの高い現場の皆さんに感謝し、敬意を表したい。

第8波では、救急車の出動が例年以上に多かったが、お待たせすることなく対応できている。救急現場の皆さんにも感謝したい。

寒い時期が続く。県民の皆さんには、マスク着用、小まめな手洗い、換気、密を避けるなど、今までどおりの基本的な感染対策をお願いする。

佐賀県は、状況を日々分析し、対処方針を示したい。